

# 第 11 回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 議事要旨

I 日 時 平成30年2月27日(火) 13:30～15:30

II 会 場 中央コミュニティセンター9階 93会議室

III 出席者

(委 員) 杉田克生委員、加瀬幹生委員、菊池裕美委員、田中章夫委員、松尾修一委員、  
廣森貴恭委員、今関裕恵委員、齋藤容一委員、小山徹信委員、鈴木由歌委員、  
金田美恵委員、堀越隆委員、石原由紀委員、乃万由佳委員、小出八重子委員、  
宇野貴博委員、池田早苗委員、伊藤依理子委員、上坂速人委員、谷直樹委員、

(代理出席) 木村氏(久保田ゆみこ委員代理出席)、計21名

(事務局) 発達障害者支援センター：仲村相談支援員、上田発達支援員、稲葉巡回相談員  
障害者自立支援課：柏原課長、矢野主査、石渡主事  
千葉市療育センター：高橋事務局長

IV 配付資料

資料1	年度別実績報告一覧表(平成25年度～平成29年度)
資料2	支援件数の推移(平成25年度～平成29年度)
資料3	平成28年度 事業報告
資料4	平成29年度 事業経過報告
資料5	事例検討(事例1、事例2)

V 議事概要

(1) 平成28年度、事業報告について

事務局より、資料1～資料3に基づき説明し、質疑応答を行った。

(2) 平成29年度、事業経過報告について

事務局より、資料4に基づき説明し、質疑応答を行った。

(3) 事例検討

鈴木委員、田中委員より事例を紹介し、意見交換を行った。

(4) その他

□ 議事要旨の確定方法について

事務局より、議事要旨について、座長の承認・署名をもって確定・公開することを  
提案し、出席委員多数の賛同により承認を得た。

VI 会議経過 別紙1のとおり

平成30年 月 日

議事録署名人 \_\_\_\_\_



【別紙1】第11回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 会議経過

○ 事務局（上田）

～開会、資料確認等～

○ 柏原課長

皆さん、こんにちは。千葉市保健福祉局高齢障害部障害者自立支援課長の柏原でございます。本日はご多忙のところ、ご出席頂きまして、まことにありがとうございます。また、皆様方におかれましては、日頃より本市の発達障害者への支援の推進にあたりまして、特段のご理解とご支援を頂いておりますこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

この連絡協議会も今回で11回目を迎えることになりました。当初は発達障害者支援センターのあり方から始まりましたが、その後、発達障害の皆さんが抱える諸問題について専門的に協議したり、検討する場として活発にご議論頂いているところでございます。

本日の議題でございますが、これまで実施してきた発達障害者支援センターの取組みのご報告をさせて頂き、委員の皆様とこれを共有し、それぞれの立場からご意見等を頂きたいと思います。また、本日、個別の事例検討がございます。個々の具体的な事例について委員の皆様と共に対象者に対する支援について意見を交換することにより、発達障害者やその家族が抱える問題や支援方法などを共有致しまして、認識を深める一助になれば幸いです。

なお、本日の事例は千葉市幼稚園協会様、千葉障害者職業センター様からご紹介頂いております。鈴木委員、田中委員、ご協力頂きましてありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

結びに、本市の発達障害者施策の推進には、この連絡協議会における委員の皆様からのご意見が不可欠であると考えておりますので、引き続きご指導、ご鞭撻の程を頂きますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

○ 事務局（上田）

～新委員紹介～

続きまして、次第の4 議題に入らせて頂きます。以降の進行は杉田座長にお願い致します。

○ 杉田座長

それでは次第の4 議題に入らせて頂きます。まず『平成28年度 事業報告について』説明をお願い致します。

○ 事務局（仲村）

～資料1・資料2・資料3-1の説明～

○ 事務局（稲葉）

～資料3-2の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見はございますか。

○ 小山委員

ぶりんぐあっぷの小山と申します。よろしくお願い致します。私共も保育所等訪問事業支援を行っております。巡回相談では先方の幼稚園、保育所（園）等との連携、情報の共有、サポートを行っていると思いますが、具体的に難しい点等の事例がありましたら教えて頂けますか。

○ 加瀬委員

はい。発達障害者支援センター所長の加瀬と申します。私よりご回答します。幼稚園、保育所（園）に事業が知れ渡っていなかったこともあり、施設の行事と重なる10月頃から12月頃までお申し込みがなくなるということが平成28年度はございました。そこで巡回相談員が1件1件訪問し、ポスターの配布等でご案内させて頂きました。

また、施設の先生は困っているのですが、保護者へご案内をお渡ししても申し込みにはつながらないということもあり、保護者の同意を得なければならない難しさがあります。

しかし、保護者の同意がなければ医療機関や保健福祉センターにつなげられないので、保護者の同意を得るという点については課題があるかと思います。

○ 杉田座長

他によろしいですか。では、次に移らせて頂きます。『平成29年度 事業経過報告について』それでは説明をお願い致します。

○ 事務局（仲村）

～資料4-1の説明～

○ 事務局（稲葉）

～資料4-2の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございます。1つだけ質問させて頂きます。巡回相談の実施数はわかりますが、千葉市内の幼稚園、保育所（園）全体に対し、どの程度カバーできていますか。

○ 菊池委員

自閉症協会の菊池と申します。私も同じことを思っていました。できればマップにして頂くとわかりやすいかと思います。

○ 加瀬委員

幼稚園、保育所、保育園の数については障害者自立支援課からお願いします。

○ 矢野主査

保育所、保育園が約１６０ヶ所、幼稚園が約８０ヶ所、認定こども園が約２０ヶ所位です。

○ 杉田座長

ぜひ市内全体に広めて頂けたらと思います。保護者の了解が必要だと思いますが、具体的には施設からピックアップされた方の相談ですか。

○ 加瀬委員

もちろん先生方から勧められて申し込まれる方もいますが、親御さんが発達障害のことを勉強されていて申し込まれる方もいます。実際にお伺いすると先生は何も困っていない、観察しても問題ないと思われる子もいます。逆にお申し込みされていない子達の方が不安という話はよくあります。

○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。

○ 松尾委員

民間保育園協議会の松尾と申します。保育園の実態としましてはトラブルになるケースも多いです。私共が相談を受けた時には保護者の方に、「お子さんを育てる中で難しく感じていることはありませんか」「育て辛いことは何かありませんか」というようなお声かけをしています。直接的に話をすると親御さんとトラブルになったり、かなりショックを受けることもあります。伝え方は勉強する必要がある、一人一人が自覚を持たないと支援につながらないということも往々にあります。

実際に保育園で親御さんへ何とか理解を示していくというのはかなり大変です。保育園で研修をする時に具体的な細かい事例を踏まえて現場の対応の振り返りはしています。ただ親御さんに伝えて療育センター等につなげたとしても、非常に混んでいてなかなか受けられないという話も実際に聞いているので、受け入れ体制としてこういった状況にあるのかを教えて頂けると非常に参考になるかと思います。以上です。

○ 杉田座長

ありがとうございます。療育センターの受け入れ体制の話についてですが、３０万の人口あたり１つの療育センターが必要だと言われています。千葉市には本来、もう２つ３つないとおかしいわけです。千葉市として予算を付けて頂けたらと思います。

他にいかがでしょうか。

○ 菊池委員

グレーゾーンの方をボトムアップすることが、将来に向けてとても大切なことだと思います。そのグレーゾーンの方達の親御さんはなぜ手を挙げないかというのと、この先、学校に入る時などにどうなっていくのかというイメージがわからないので、なるべくいられる限り普通の中で育てていって、無理だった時にとまっている方も中にはいます。

また、3歳位から家庭でどう育てたらいいのかと対応に悩んでいる方もいます。1回障害の支援を受けるとずっとそのままだとってしまう方もいます。実際はそうではなく、グレーゾーンだったけれども何とかやっていけている方もいます。それは支援がきちんとあったからで、それが早期療育の成果であったりします。今、特別支援学校に行っているも通常学級に戻る方もいたりするので、そういったことも広めて頂けたらと思っています。

3歳児健診で指摘を受けた方へはどのような対応をされるのか教えてください。

### ○ 金田委員

健康支援課の金田と申します。各区の母子保健事務を総括している課になります。3歳児健診も所管ですが、3歳児健診では主に保護者の方の訴えを中心に拾い上げていきます。発達障害が心配なので、すぐに療育機関につないでほしいという場合には療育センターをご紹介します。療育センターはハードルが高いので、受診が必要かどうか相談してみたいという場合には保健福祉センターの心理相談をご紹介します。

また、子育てプランの1つであるストレス相談につないだり、家庭訪問を行ったり、保護者のご理解が得られれば、継続的に幼稚園や保育所（園）に訪問してアドバイスをさせて頂くといった形で行っております。以上です。

### ○ 杉田座長

療育センターで診療していると紹介状がないことも多いので、医療機関からの紹介状を頂きたい。小児科医や開業医にある程度診て頂いた後に、より可能性の高い方を療育センターに紹介することも考えて頂きたいと思います。

他にいかがでしょうか。

### ○ 菊池委員

医師会の小児科医会で研修をして下さっています。できればここに小児科医がいてもいいかと思います。

心理士の方が育てにくさを感じている親御さんのサポートをするということですが、どんなサポートをしているのだらうと思ったりします。アーリーバードというイギリスのプログラムは非常によくできています。この時期をどう過ごすかで、その先の親の負担も構えも気持ちも変わるので、そこは丁寧にやって頂いて、色々な機関と連携して頂けたらと思っています。よろしくお願いします。

### ○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。

### ○ 小山委員

連携というところで、例えば療育センターを受診されて、紹介を頂くということがけっ

こうありますが、その際に情報提供が一切ありません。情報開示を求めてもなかなか情報を頂けないケースが結構ありますが、情報は頂けないものなののでしょうか。

#### ○ 杉田座長

例えば養護教育センターなどには、療育センターから検査結果等を定期的に渡したりしています。療育センターは医療機関と福祉部門を併設しております。必要なものがあれば親御さんに渡すことは何の支障もないかと思います。具体的にはどういったことでしょうか。

#### ○ 小山委員

具体的に療育センターからこちらにケースとして紹介されて、療育センターの検査結果などを頂けないかと話をしても、医療機関ではないから渡せないということが何件かあります。

#### ○ 加瀬委員

直接はできないと思います。保護者の方がもらっているものをコピーすることはできると思います。個人情報なので、どんな理由であっても直接は渡せないものもあると思います。

#### ○ 小山委員

親御さんに対してかなり強く要望しないと結果を口頭で説明してもらえないというケースがあるようです。中には情報を持っている親御さんもいて、療育センターからもらったものをこちらに開示する方もいますが、それは相当に粘ってもらったというような状況のようです。

#### ○ 杉田座長

医療は開示の時代です。あくまでも医療機関が保護者の了解なく他の機関に情報を渡すということはありません。逆に言うと保護者の希望があれば、それを拒否するということは医療機関としてはありえないことです。

#### ○ 小山委員

確認ですが、保護者が療育センターや病院に情報を求めた場合に拒否はできない、そこで得た個人情報を我々が頂くというプロセスでいいということですね。

#### ○ 杉田座長

それは保護者と事業者の関係なので保護者が判断することになります。補足ですが、以前にこの協議会でライフサポートファイルを作成しました。これは保護者がデータを入れて、それを色々な支援機関に行っても使えるように作ったものです。それは同じ趣旨ですので、保護者に渡しているものを共用するということをぜひ確認して頂きたい。

他によろしいでしょうか。では療育センターの事務局長も来ていますのでお願いします。

## ○ 高橋事務局長

療育センターの高橋と申します。よろしくお願いします。今、杉田先生からお話に出ていたとおり、事業者の方から直接、情報の提供を求められた場合については情報の提供はしておりません。保護者の方の同意、了解がないと情報の開示、提供はしておりませんので、やり方としては先程ご説明のあったとおり保護者の方からということがポイントになります。

## ○ 杉田座長

他によろしいですか。それでは事例検討をお願い致します。

## ○ 加瀬委員

過去の事例検討では発達障害者支援センターのケースを中心に意見交換しましたが、今回は事前にご快諾頂いた委員より事例発表をして頂きたいと思います。児童の事例につきましては千葉市幼稚園協会の鈴木委員、成人の事例につきましては千葉障害者職業センターの田中委員にご協力頂きました。それぞれ発表、意見交換を併せて30分位を目安にお願いしたいと思います。資料はお手元にあります「事例検討」「終了後に回収致します」とセットになっているものになります。それでは鈴木委員からお願い致します。

## ○ 鈴木委員

[事例1]

### ○概要

- ・幼稚園（年長児）の事例。言語でのコミュニケーションが困難。児童発達支援事業所を利用。
- ・園では保育者の仲介や仲の良い友達の力も借りて、関係性を少しずつ広げていった。
- ・小学校入学に向けて、養護教育センターの就学説明会に参加。小学校へのスムーズな引継ぎのため、個別の教育支援計画を作成。

個別の教育支援計画を幼稚園で保護者からの依頼を受けて作成致しました。これについていい機会ですので、この場を借りてご紹介させて頂きたいと思います。千葉市の特別支援教育連携会議の作業部会の中で、千葉市で統一したものを作っていけないだろうかということが話題になりました。既に養護教育センターでは障害のある子の就学以降の個別の教育支援計画については作成されています。ただし、それは1ページ目にいきなり診断名を書くなど障害ありきで始まるような個別の教育支援計画になっています。その点では先程から保護者が認めて相談に行くという流れはハードルが高いということが話題になっておりますが、やはり障害ありきでないとスタートできないということがあるというのが、その作成にあたった者達の共通の認識でした。この個別の教育支援計画は本児が困っていること、関心のあることなどを書き、その子の具体的な支援につなげていこうというものです。

これは親御さんの依頼を受けて幼稚園、保育所（園）が作成します。勝手に教育機関や保育所（園）等が作れるものではありませんので、あくまで保護者の依頼を受けて作成を



します。今年度については6月に行われた養護教育センターの就学説明会や就学の相談に伺っている方達に紹介し、トライアルの期間ということで行っています。ちょうど今の時期に小学校にこれらが保護者を通じて届けられているという状況にあります。千葉市幼保統一版として作りましたので、広く活用されることを作成した者としては願っております。皆様からお声かけして頂けたらありがたいと思っています。

これは3、4、5歳児用となっていますが、0、1、2歳用も作っていますので、幼稚園、保育所（園）を転園した時にも親御さんが持って行けば支援につなげていけるというものになっています。それぞれの連携に活用して頂けたらと思っています。

また、できるだけ親御さんの負担を少なく、読んですぐに伝わるようにと願ってこのような形で作らせて頂きました。現在、アンケートを取っていますので、次年度にそれを踏まえて修正があるかもしれませんが広めていきたいと思っています。以上です。

### ○ 杉田座長

ありがとうございます。個別の教育支援計画についてですが、これは小学校、特別支援学校だけですか。教員が作る教育支援計画とは異なると思いますが、その辺りはどのようなになっていますか

### ○ 谷委員

養護教育センターの谷と申します。養護教育センターとしては、まず校長会、教頭会、教務主任会の中で、こういうものを持ってきた場合はきちんと受け取って頂いて、これを元に小学校版の個別の教育支援計画を作ってくださいとお願いしています。また、来月には養護教諭の全体研修会もありますので、その場でも同じことを申し伝えていく予定です。

### ○ 杉田座長

ご意見等ありましたらお願いします。

### ○ 小山委員

個別の支援計画が各施設にあります。その上に相談支援の計画相談というものがあり、計画相談を元に個別の支援計画を作ることになっています。学校に上がる時の引継ぎの仕組みを考えられたらと思っています。

### ○ 鈴木委員

そうですね。その辺りが児童発達支援事業と幼保の連携、それからそこと学校との連携とが整理されていないところだと思っています。個別の教育支援計画については診断を受けている子も書いていますが、診断を受けていない子も書いています。今回の事例の幼稚園では入手時に周知しました。その中で興味を持った方や心配がある方について作成してみました。全員が児童発達支援事業や療育に関わっている子ども達でもないの、その辺りの連携をどうするかは課題になっていくところだと思っています。

また、個別の教育支援計画は幼稚園と一緒に作りますが親御さんのものなので、学校以外の例えば子どもルーム等でも必要があれば親御さんが持って行くといった性格のものに

なっています。

#### ○ 杉田座長

幼保支援課からもコメントをお願いします。

#### ○ 宇野委員

幼保支援課の宇野と申します。教育支援計画は保護者のものという考えで、小さい時から高校を卒業する１８歳位まで使えるような形で作っています。保護者の方には小さい頃からの記録という意味で持っていて頂ければいいかと思います。

#### ○ 杉田座長

先程、お話ししましたライフサポートファイルとオーバーラップします。こういったものについては行政が統括し、ダブルことなく統一性を持ってやって頂けたらと思います。

また、学校に入学すると学校の先生が個別支援計画を作り、それは教育側が持っているものだと思いますが、今は保護者に開示できるようになりましたか。

#### ○ 谷委員

はい。学校も保護者の方と一緒に個別の支援計画を作るようになっていきます。原本は保護者の方が持っていて、学校がコピーを預かっているという形を取らせて頂いています。

#### ○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。

#### ○ 菊池委員

すごく丁寧に指導して頂いてありがとうございます。別の視点ですが、課題のところに言葉によるコミュニケーションが難しいことが予想されるとあります。この子はP E C S（絵による療育）という手法がとても有効だと思いますが、P E C Sを使った手法というものをごどこかでやってくれる所があるのかどうかを知りたいです。また、間違っただけでできないことを見られるのを嫌がるというのは自閉症の子の特徴です。集団生活に適応していくには時間が必要と思われると思いますが、時間をかけるだけでなくソーシャルストーリーを使って、「こういうことがあっても、君はこれができるから大丈夫です」と、この子が一つ一つの行事をこなしていく時の力になる指導が必要だと思います。時間が経ただけでは二次障害が起きてしまいます。ソーシャルストーリーは通級や特別支援学校がやっています。

#### ○ 今関委員

小倉小学校の今関と申します。小学校の入学に際して、言葉でのコミュニケーションが苦手、行事への参加に不安感があるなど、保護者からご相談があった場合、例えば入学式の全部の装飾が終わった時に「入学式はこういう体育館の中でこう歩くよ、この席に座るよ」と前もってその行事について伝えたりしています。

また、ソーシャルストーリーやソーシャルスキルは通級でやることもありますが、通常学級にいるお子さんを特別に通級で抜き出しでということは難しいです。そういうお子さんに対しては予想されることは説明したり、保護者と本人と「ここまでだったらできる」「長くは難しいから見学している」と相談したり、少しずつ慣れてきたら、まずは皆と一緒に動かなくてもいいから一緒にいるといったようにしています。最初からやりなさいではなく、本人と保護者と相談しながら取り組んでいって、少しずつ適応につなげるという取り組みをしています。

## ○ 菊池委員

スケジュールを把握させるためにスケジュールを持って行事に参加するなど、具体的な方法があって、それが有効だとわかっているものについては取り入れてもらえるとうれしいと思っています。

言葉が出ていても全ての言葉がわかっているわけではなく、言っていることと想像することが違っていたりもするので、言葉が話せる子でもPECSはとても有効です。ですからPECSをもっと用語教育センターなどで取り入れられるといいと思っています。なかなかPECSの指導をしているところがないので、情報があったら調べて頂けるとありがたいです。

また、ソーシャルストーリーがもっと広まれば、グレーゾーンの子どもはぐっと助かるはずです。スケジュールを持って歩くというのはなかなか理解されないですが、自閉症の子どもはノルマをこなすのがすごく好きなので、終わったら次はこれと、次は何があるかわかるだけですごく落ち着きます。その子どものせいにしないでほしいです。二次障害は周りが作っていくことを共通理解して頂ければと思っています。よろしくお願いします。

## ○ 今関委員

ユニバーサルデザインで、変更がなくても予定は黒板に必ず1時間目は国語、2時間目は算数と、変更があつたら、この時間はこれと、ほとんど教員は黒板に書いて伝えるようにはしています。まだ不足していて、子どもが混乱していることもあるかと思いますので、また色々教えて頂ければと思います。

## ○ 杉田座長

特別支援学校で個別の支援を行っていると思いますので、齋藤委員からお願いします。

## ○ 齋藤委員

千葉市立高等特別支援学校の齋藤と申します。本校では教育支援計画については、生徒毎に違いますが、外部機関を利用していたなどの情報を保護者に聞いております。中学校も一緒だと思いますが、個別の指導計画は学校生活での目標、各教科や作業学習で何を学ぶかなどを必ず親に確認して作成するようにしています。

## ○ 杉田座長

中学校からもお願いします。

○ 廣森委員

花見川中学校の廣森と申します。中学校の通級指導教室では将来に向けて色々と考えていくべき段階になっていきますので、ソーシャルスキルやスケジュール管理もやりますが、どちらかという将来の見通しを持てるように、自分の考えをまとめたり、そのために必要な力がどういう力なのか、中学の間にどのような力を付けたいのかといったことを目標設定しながらクラスや在籍校で頑張っていけるようなサポートを行っています。

○ 杉田座長

では、もう一例ありますので、お願いします。

○ 加瀬委員

田中委員から成人の事例について、お願い致します。

○ 田中委員

〔事例2〕

○ 概要

- ・在職中の従業員の定着にあたり、合理的配慮を調整した事例。
- ・就労移行支援事業所からジョブコーチ支援の要請があり、就労移行支援事業所の担当者、ハローワークの担当者、障害者職業センターのカウンセラーで検討。
- ・ジョブコーチ支援の前に、合理的配慮の提供のための調整から支援を開始。従業員と事業所の双方に働きかけをしている。

○ 杉田座長

発達障害の方の就労支援と口で言うのは簡単ですが、本当に地道な努力と言いますか、サポートされてる方々は苦労が多いと思います。ご意見いかがですか。

○ 木村氏（久保田ゆみこ委員代理）

千葉発達障害児・者親の会「コスモ」の木村と申します。親の会で2018年問題について聞いてきてほしいと言われています。有期契約雇用者が有期契約で5年以上働いた場合、この4月で雇用してもらえと言われていたのですが、手帳就労の方の場合はどうなっていますか。

○ 田中委員

無期への転換については、手帳取得の有無は関係ありません。

○ 木村氏（久保田ゆみこ委員代理）

その方が無期契約にしてほしいと伝えた場合は対象になっていくということですか。

○ 田中委員

決められた期間を、例えば5年なら5年の決められた雇用期間を満了するという時に会

社にご相談するということはあると思います。

○ 木村氏（久保田ゆみこ委員代理）

そういうことができるということを知らない方も多いので、間に立って頂けたらと思います。本人よりは親の方が有期契約1年毎というのは、毎年、毎年、大丈夫なのかしらと心配するので、制度が変わることについては嬉しい部分もありますが、そううまくいくのかなと思います。

○ 田中委員

まず相談先として考えられるのが、ハローワークかと思います。より近いハローワーク以外の相談機関では、障害者就業・生活支援センター、いわゆるナカポツセンターでもご相談を受けられると思います。障害者就業・生活支援センターの中でも有期の転換については話題に出てきていますが、こういった場合どうなりますかという確認が多いです。おそらくハローワーク、労働行政と我々支援機関とで、これから先どうなっていくかを確認しながら、企業側と働くご本人との橋渡しをしていくことになるかと思っています。

○ 木村氏（久保田ゆみこ委員代理）

ありがとうございます。もう1つ、東京の障害者職業センターで大学3年生向けのセミナーが行われましたが、千葉ではどうでしょうか。

○ 田中委員

わかりました。ご要望、ご意見としてお受けしたいと思います。

○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。就労支援は非常に大変なことだと思いますが、教育機関からつながっていくことも大切だと思います。児童相談所は就労に関してはあまり関与しないですか。

○ 伊藤委員

児童相談所の伊藤です。就労に関して何か特別な支援や斡旋などは行っていません。虐待ケースで関わっていて、18歳を超える時にさようならというわけにもいかず、まして家に帰って親御さんと暮らせるという方ばかりでもないというところでは、一緒にハローワークに行って、就労先や住み込みを探すということもあります。また、施設のアフターフォローを行っているような支援機関と一緒に電話してつなげるなども行い、そういった形で何とか就労に結び付けています。

○ 杉田座長

発達障害者支援センターはどうされていますか。

○ 加瀬委員

先程の期間の件で、実際に相談されている方が就労して5年が経って、企業から無期雇

用の打診をされて、実際に「これで定年まで働ける」とおっしゃっている方が数名出てきています。そういった制度は会社、事業所が考えていく制度になりますので、事業所にご相談されてもいいかと思います。

発達障害者支援センターの就労相談は障害者職業センターをはじめ、キャリアセンター、就労移行支援事業所等と連携をしながら取り組んでいます。ただし、訓練等に行くのは嫌だという方も中にはいらっちゃって、全ての方が訓練を通して就職しているかというとそういうわけではありません。ハローワークの専門援助部門、キャリアセンター等と協力して、ご本人のお話を伺いながら企業を探していくといった取り組みも行っています。

## ○ 杉田座長

今日、発言されていない方もいますので、お願いします。

## ○ 乃万委員

障害者相談センターの乃万と申します。障害者相談センターでは大人の方の療育手帳の交付を行っております。「18歳以上で初めて療育手帳の交付を希望する方へ」という説明の用紙を配らせて頂きました。例えば小学校、中学校の頃は知的障害があるが何とか支援を受けずに通常学級で療育手帳を取らずに頑張ってこられた方でも、30歳、40歳になった時に仕事につまずいて知的障害者としての支援を受けたい、療育手帳がほしいとご相談にいらっしゃることがあります。療育手帳は18歳を超えて申請された時には18歳までに知的障害があったことを示す資料が必要になりますが、成績表やテスト結果などを見たくもないから捨ててしまったという方が多かったです。今は療育手帳を取らず、福祉の支援を受けないで頑張りたいという方にも、大人になってからほしいと思った時には成績表やテスト結果が交付を受ける時に必要になるので、捨てないで取っておいた方がいいですと伝えて頂ければと思います。この用紙は療育手帳の交付申請をする高齢障害支援課にだけ配っていますので、周知の機会として配らせて頂きました。よろしくお願いします。

## ○ 杉田座長

これは行政として、ホームページや市の広報で案内しているのですか。

## ○ 乃万委員

していません。

## ○ 杉田座長

ここだけではあまり行き渡らない気がします。

## ○ 小山委員

確認ですが、18歳を超えても療育手帳は取れるのですか？

## ○ 乃万委員

取れますが、18歳までに知的障害があったことを示す資料が必要になるので、例えば

医療機関で診断を受けた時にもらった書類を取っておいて頂きたいということです。

○ 小山委員

精神障害者保健福祉手帳しか取れないという認識でしたが違うのですか。

○ 乃万委員

それは違います。ただそういった痕跡を捨ててしまったという方になると、すごく大変になりますので、捨てないで置いて頂けたらということです。

○ 杉田座長

はい。他によろしいですか。それでは次に進ませて頂きます。事務局からお願いします。

○ 加瀬委員

追加資料で「第10回世界自閉症啓発デーinちば」というチラシを1枚入れさせて頂きました。3月号の市政だよりにも載せさせて頂きました。東京では4月2日に東京タワーのブルーライトアップが予定されていて、セサミストリートの中にジュリアちゃんという自閉症の方がいますが、そのジュリアちゃんと一緒にライトアップのスイッチオンをすると聞いています。千葉市は千葉県発達障害者支援センター、千葉県自閉症協会と3団体で世界自閉症啓発デーinちば実行委員会を組織しておりまして、4月7日（土）11：00から16：30まできぼーるの1階アトリウムでイベントを行っておりますので、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご案内頂ければと思います。

○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。

○ 矢野主査

障害者自立支援課の矢野です。まだ議会で決定していませんが、来年度予算につきまして、発達障害者支援の推進ということで拡充をする予定でございます。大きく2点ございまして、発達障害者支援センターの人員体制の強化と、もう1点が市内の医療従事者に対して発達障害への対応力向上の研修を実施することになっておりまして、本年度は国の方で研修を受けた講師の方に研修を実施して頂くという形になっております。医療従事者向けということになりますので、医師や看護師だけではなく、例えば受付の職員なども含めて、発達障害についての知識や対応について学ぶ研修を実施する予定で、千葉市医師会の方と協力しながら検討しているところです。

○ 木村氏（久保田ゆみこ委員代理）

発達性協調運動障害について、まだ小学校や中学校でわかってもらえていないと保護者から意見があります。特に通常学級で知的に問題はないが不器用から来る授業の中での辛さや困り感をもう少し先生達にわかって頂きたいと思うので、よろしくお願いします。

○ 杉田座長

発達性協調運動障害は発達障害（神経発達症）に含まれていますが、医療側も私を含めて啓発に努めていきたいと思います。

よろしいでしょうか。では事務局の方からお願いします。

#### ○ 事務局（上田）

事務局より1点お知らせがございます。本日の議事録についてですが、杉田座長に内容を確認していただいた上でご署名いただき、公開することとしてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。事務局からは以上です。

委員の皆様方、長時間にわたりご議論頂きありがとうございました。以上をもちまして、第11回千葉県発達障害者支援連絡協議会を終了させていただきます。

本日は大変お疲れ様でございました。